

Citation: Hofmeyr GJ, Lawrie TA, Atallah AN, Duley L. Calcium supplementation during pregnancy for preventing hypertensive disorders and related problems. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 8. Art. No.: CD001059. DOI: 10.1002/14651858.CD001059.pub3.

CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 4 July 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 8, Update

背景: 子癩前症と子癩は重篤な罹病および死亡の一般的な原因である。カルシウム補充は、多数のメカニズムにより子癩前症リスクを減じる可能性があり、早産予防を助けられると思われる。

目的: 妊娠中のカルシウム補充が妊娠の高血圧性疾患および関連する母体および児アウトカムに及ぼす影響を評価する。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Registerを検索し(2010年5月)、研究著者に連絡を取った。

選択基準: 妊娠中のカルシウム補充(1g以上/日)とプラセボを比較しているランダム化試験。

データ収集と分析: 適格性と試験の質を評価し、データを抽出しダブル入力した。

主な結果: 13件の良質な研究(対象15,730例の女性)を選択した。高血圧の平均リスクはプラセボと比較してカルシウム補充により低下した(12件の試験、15,470例の女性: リスク比(RR)0.65、95%信頼区間(CI)0.53~0.81)。カルシウム補充に関連した子癩前症の平均リスク比の低下も認められた(13件の試験、15,730例の女性: RR 0.45、95% CI 0.31~0.65)。この効果は高リスクの女性(5件の試験、587例の女性: RR 0.22、95%CI 0.12~0.42)、および、ベースラインカルシウム摂取量が少なかった女性(8件の試験、10,678例の女性: RR 0.36、95%CI 0.20~0.65)で最大であった。

早産の平均リスクはカルシウム群全体(11件の試験、15,275例の女性: RR 0.76、95%CI 0.60~0.97)、および4件の小規模試験に集積された子癩前症の発症のリスクが高い女性で(568例の女性: RR 0.45、95%CI 0.24~0.83)で低下した。

死産や退院前死亡のリスクに対して全体で効果はなかった(11件の試験、15,665例の乳児: RR 0.90、95%CI 0.74~1.09)。母体死亡または重篤な罹病から成る複合アウトカムは減少した(4件の試験、9732例の女性; RR 0.80、95%CI 0.65~0.97)。これらの試験における女性の多くは低リスク群であり、低カルシウム食を摂取していた。母体の死亡は1件の試験でのみ報告された。カルシウム群で1例、プラセボ群で6例の死亡があり、差は統計学的に有意でなかった(RR 0.17、95%CI 0.02~1.39)。

小児期の血圧は2件の研究で評価されたが、今回選択されているのはそのうち1件のみである: 95パーセンタイル以上の小児期収縮期血圧は減少した(514例の小児: RR 0.59、95%CI 0.39~0.91)。

レビューアの結論: カルシウム補充は子癩前症のリスクを約半分に減じ、早産リスクを低下させ、死亡または重篤な罹病の複合アウトカムの稀な発生を減じるようである。その他の明らかな利益や有害性はなかった。

(監訳 江藤宏美)

翻訳公開日: 2011年3月25日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。